

SHIP 通信

県立麻生支援学校

支援連携グループ

No.2

令和6年9月 発行

教育相談・地域支援担当から

秋の公開講座のお知らせ



10月に間賀田先生をお招きして、「みんな知りたい、性と生の話～入門編～」というテーマで保護者の皆様や地域の方へ御講演いただく予定です。今年度の夏季休業中の教員の研修でも、御講演いただきました。詳しくは配付プリントまたは本校のホームページを御確認ください。

スヌースレンルームの紹介

「スヌースレン」とはオランダ語の「スヌッフレン」と「ドースレン」の合成語で「探索」や「リラクゼーション」の意味を兼ね備えています(国立特別支援教育総合研究所より)。

本校でも、スヌースレンルームがあります。様々な色のイルミネーションライトや光と泡のバブルユニットなどの電飾で様々な光を楽しめます。ゆったりとした音楽を楽しんだり、マットレスで横になったりと、過ごし方は様々です。児童生徒が思い思いにリラックスできるスペースです。10月末にはハロウィンの装飾に替わります。

☆柿祭でも開放予定です。ぜひリラックスしにお越しください。



夏の学習会

発達障害のある児童生徒の
行動観察、支援の手立てについて
～応用行動分析の視点から～

8月28日(水)、本校教職員に加え、地域の小中高等学校、特別支援学校、事業所職員等の方々が参加して夏の学習会を行いました。

学習会では横浜国立大学大学院教育学研究科 渡部匡隆教授をお招きしてご講演いただきました。

具体的な事例を基に、児童生徒の支援の手立ての考え方についてお話をいただいたり、ワークやロールプレイングを通して実際に行動分析を行ったりすることで、テーマについて理解を深めることができました。今回学んだことを、今後の教育活動に生かして参ります。



移行支援(進路)担当から

卒業生のアフターフォロー

毎年夏季休業期間を利用して、直近の卒業生の進路先に進路担当や元担任がお伺いし、御本人の活動の様子を見学したり、スタッフの方から様子をうかがったりしています。

現在では3~4か月経ち、徐々にそれぞれの環境や活動内容などに慣れてきている様子を知ることができます。事業所ごとに御本人のペースに合わせてさまざまな支援をしてくださっていることがよくわかりました。

卒業後、新たな心配事が出てくることもあるかと思います。通所先の事業所や職場のスタッフへの相談はもちろんですが、区役所障害課の担当ケースワーカーや契約している計画相談事業所の相談員さん、また横浜では各区にある基幹相談支援センター、川崎では各区にある障害者相談支援センターなどが、卒業後も相談できる機関になります。困ってしまったら、学校でももちろん御相談を承ります。

計画相談事業所とのつながりは卒業後福祉サービスを利用するためには必要ですが、機会があれば在学中から身近な相談先としてあると良いと思います。

夏の個別施設見学

高等部になると卒業後の進路先を検討するために、保護者の方がメインで施設等の見学をしていきます。高等部2年生は夏季休業を利用して、保護者の方と一緒に生徒本人も福祉施設の見学をしてもらいました。今回見学に参加できた生徒は学校卒業後にどういうところに通って、どんな活動をするのかなど、実際に見て感じることがあったらうと思います。参加された保護者の皆様には、暑い中いろいろと御協力いただきまして、ありがとうございました。進路選択に向けて良い機会となっていたら幸いです。

教員研修(富士通ハーモニー株式会社見学)

8/20にJR南武線の武藏中原駅にある「富士通ハーモニー株式会社」に麻生支援学校教員で見学にお伺いました。Fujitsu technology parkオフィスと中原オフィスがあり、それぞれ主な仕事が違います。

Fujitsu technology parkオフィスでは、親会社オフィス内の環境整備(備品管理やコーヒーサーバー清掃、健診センターの清掃や検査キット袋詰めなど)、ノベルティ製品の製作、社内カフェ(この4月にできたばかり!)での接客業務などを行っていました。中原オフィスでは、契約書の電子化作業を中心にコーヒーサーバーの清掃なども行っています。実際に働いている方々が複雑な作業内容を説明してくれましたが、自信をもって仕事に臨みながらも、御自身の苦手とすることもよくわかって、謙虚な姿勢で取り組まれている様子が印象的でした。

サタデーセミナーのお知らせ

10/5(土)10:00~12:00 本校2階会議室にて、元高津養護学校の総括教諭で現在「一般社団法人 木と葉と根」代表理事の今泉修一さんに「卒業後の生活～くらしと余暇～」というテーマで御講演いただきます。内容についてはまた御報告させていただきます。